

研究テーマ：コンテンツロジスティックのためのインテリジェント・メディアハブ・プラットフォームの研究開発（1/2） （プロジェクト番号 JGN-G11007）

研究機関： 大阪大学基礎工学部、大阪大学サイバーメディアセンター、東京大学情報基盤センター、NTT西日本、朝日放送、新日鉄情報システム

研究の概要：

インターネットデータセンターをメディアハブに見立て、コンテンツの提供者である放送事業者と、コンテンツの受信者となる研究機関をつなぐ広域のコンテンツ流通インフラを用意する。このインフラは、DiffServ をベースとした QoS(Quality Of Service)保証機構を備えるものとし、この QoS 保証を前提とした SLA（サービスレベルの合意）に基づくコンテンツ配信サービスを実験的に行い、メディアハブを用いたコンテンツ流通モデルの有効性の検証を行う。

研究の目的：

本研究では、広域IP網においてQoSを駆使し、ユーザニーズに応じたきめ細かい情報を発信するような高度なコンテンツの流通の実現を目指し、必要となる技術の研究開発を実施する。ここで述べた高度なコンテンツ流通形態の概念を、“コンテンツロジスティクス”と呼び、その中心的役割を担うインテリジェントなコンテンツ集積配信拠点を“メディアハブ”と呼ぶことにする。コンテンツロジスティクスは、いかにコンテンツをきめ細かく管理、蓄積し、ユーザニーズ、配信先の環境などに応じて適切に選択、編集して配信するかが鍵となる。インテリジェント・メディアハブのイメージを図1に示す。

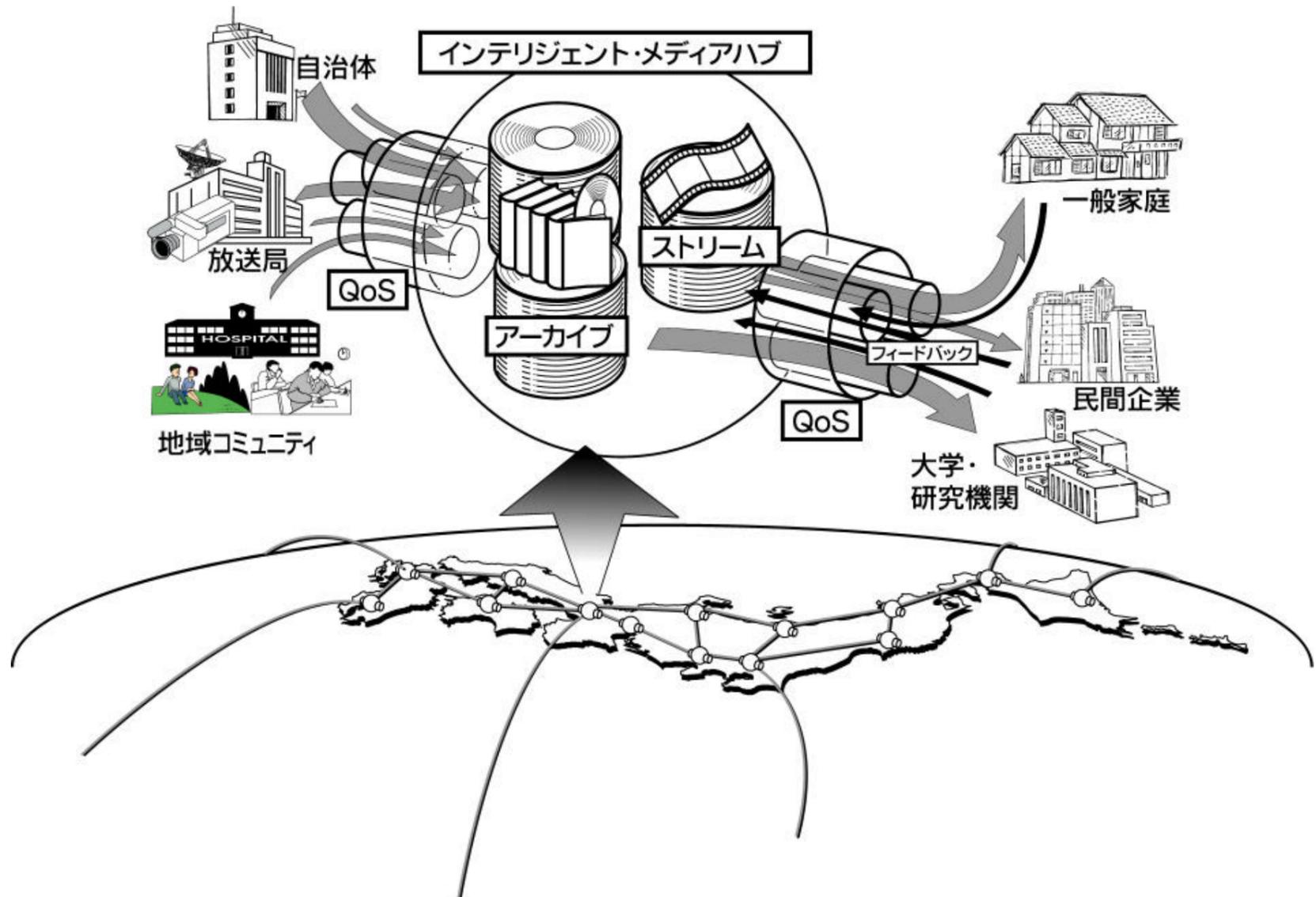


図1 インテリジェント・メディアハブのイメージ

研究テーマ：コンテンツロジスティックのためのインテリジェント・メディアハブ・プラットフォームの研究開発（2/2）
（プロジェクト番号 JGN-G11007）

研究機関： 大阪大学基礎工学部、大阪大学サイバーメディアセンター、東京大学情報基盤センター、NTT西日本、朝日放送、新日鉄情報システム

実験機器構成：

図2にメディアハブシステムの全体構造と、それを組織するコンポーネントの関係を示す。

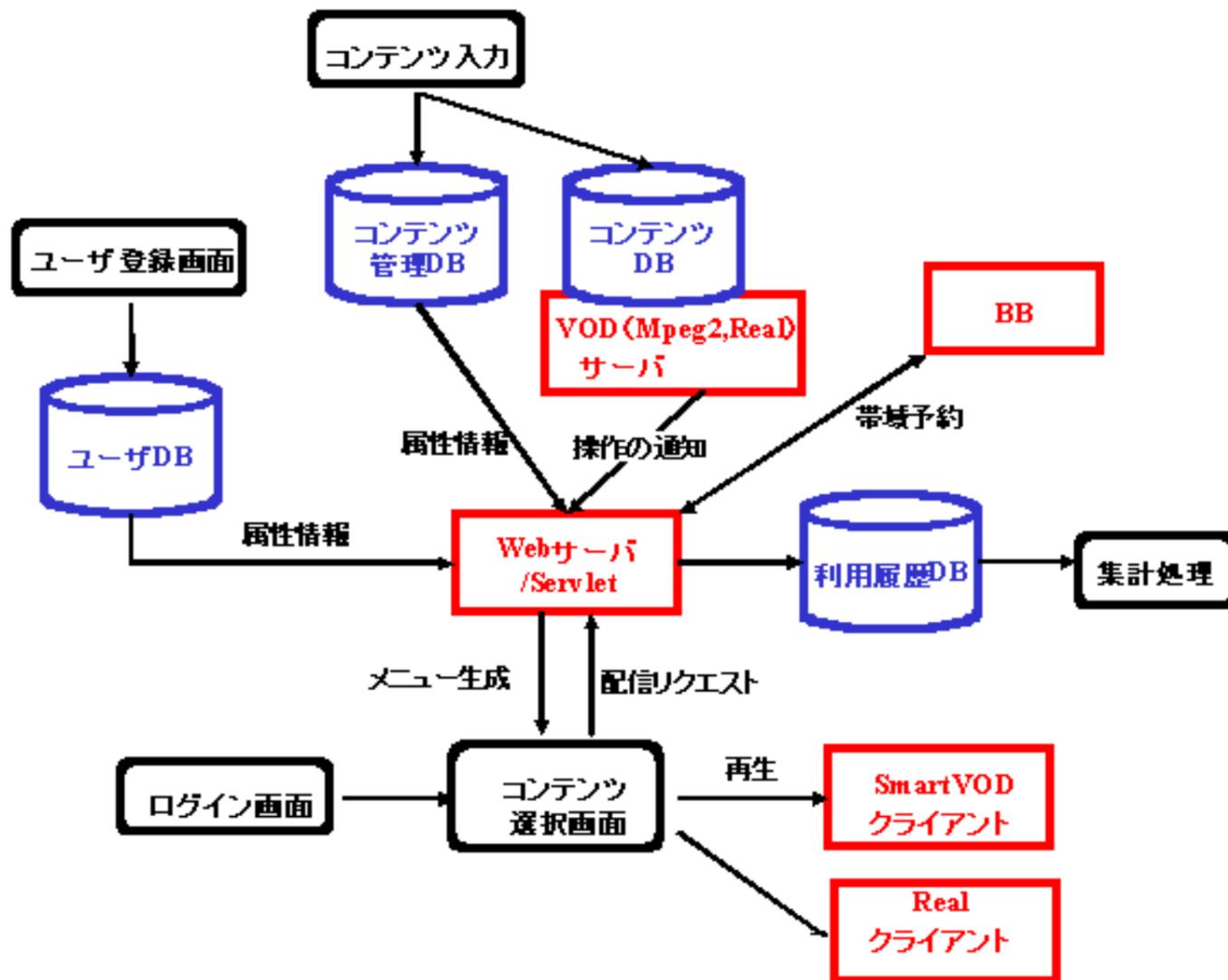


図2 インテリジェント・メディアハブの機器構成

研究開発状況：

- 2000年4月～6月 テストベッドの構築
- 2000年7月～8月 コンテンツ配信実証実験の実施
- 2000年9月～2001年1月 QoS保証実証実験の実施
- 2001年3月 平成12年度実証実験全体のまとめ

今後の予定：

放送とインターネットの融合を目指した取り組みの中で、ニーズ志向のトライアルを進めていく。

将来の展望：

性能やセキュリティの品質を保証したネットワーク技術の確立と、それを前提とした次世代のアプリケーションサービスおよびコンテンツ流通の基盤技術の確立を目指す。